



NATIONAL AINU MUSEUM

vol.004
2021 MAY

アヌコ アイヌ イコマケル ソコ 国立アイヌ民族博物館 ニュースレター アヌアヌ

ANUANU

基本展示の注目ポイント④

「ウパシクマ 私たちの歴史」

探究展示テンパテンバ②

博物館Pickup! / 見て見て! 館内サイン④

キックオフシンポジウム

「アイヌ文化の教育と人材育成」

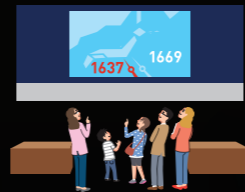
ウポポイってこんなところ①

お知らせ



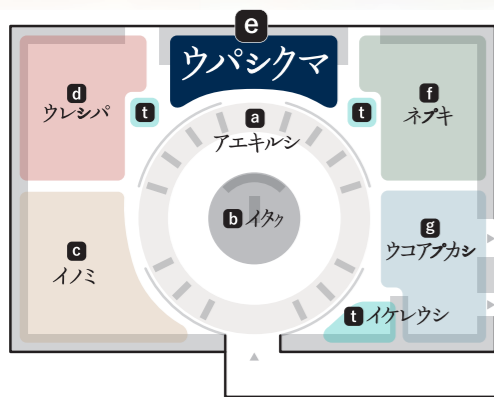
基本展示の注目ポイント④

ウパシクマ 私たちの歴史



常設の基本展示室は、私たちアイヌ民族の視点で、ことば、文化、歴史について紹介しています。

数回にわたって、それぞれのテーマの見どころをお届けします。



基本展示における「ウパシクマ」の役割

人類が北海道にやってきた3万年前から、現在に至るまでの年表を軸に、土器や石器、古文書、さらにアイヌ民族が出版した書籍や雑誌、手紙などで歴史を紹介し、北海道、樺太、千島といったアイヌ民族の居住地と、周辺の日本、中国、ロシアをはじめとする世界との関係にも触れています。アイヌ民族の歴史のひろがりをつらなりをご覧ください。

(新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、映像プログラムの一部が休止となっている場合があります。)

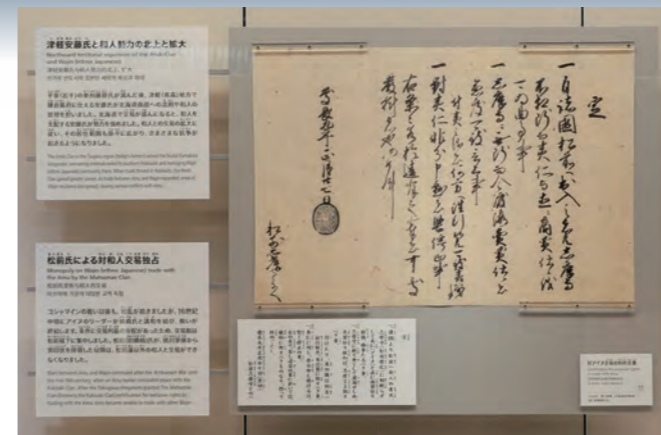


遺跡から見た私たちの歴史

北海道・樺太・千島、特に北海道の遺跡から出土した土器、石器、鉄器、骨角器などの考古学資料から、文字資料(史料)には残っていない歴史をたどります。その特徴は、北は中国大陸から樺太へあるいはカムチャツカ半島から千島へ、南は本州から北海道へと多様なモノと文化が往来してきた点にあります。それにより、独自の文化が形成されてきたと考えられます。



ウポイPRキャラクター トウレットポん



交易圏の拡大と縮小

本州などから北海道へ和人が北上してきた14~15世紀以降、19世紀中頃までの出来事を、図や年表を用いて解説しています。展示資料(複製を含む)は、主にアイヌ民族について和人が書いた古文書です。くずし字は読みづらいですが、資料によっては活字化した文面のパネルも配置していますので、読み比べながら、いにしへの北海道や樺太に思いをはせてみてください。



私たちの生活が大きく変わる

19世紀中頃、明治政府が開拓使を設置し北海道と命名。住民は日本国民となりました。同化政策により、主な習慣が禁止され、主食となるサケ・マスを川でとることの禁止、シカなどを毒死でとることの禁止など、生活への大きな打撃がありました。日本とロシアの間で画定された国境の変遷により、樺太アイヌや千島アイヌは強制的な移住を経験しました。



現在に続く、私たちの歩み

終戦直後の1946年に、アイヌ民族の社会的地位の向上、差別の解消などを目指して北海道アイヌ協会が設立され、農地改革の給与地適用除外を求める運動を展開しました。「単一民族」意識が日本社会でひろがっていく状況の中で、1960年代以降、世界的な社会運動の高まりや民族意識の高揚をうけて、アイヌ民族自身が雑誌、新聞等を発行し、過酷な被差別体験の訴え、権利の主張、独自の歴史の発掘などについて発表しました。

研究員のおすすめポイント

「私たちの歴史」では、ストロゾフ ヤコフ、千徳太郎治、金成マツ、荒井源次郎、達星北斗、知里幸恵、山本多助、知里真志保、貝澤正、野村義一、萱野茂といった人物を紹介しています。歴史の大きな流れとそこで生きた個人の具体的な歩みが交錯するダイナミズムが感じられます。(研究主査 関口由彦)

1階シアター「アイヌの歴史と文化」

人類が日本列島にやってきてから現代までのアイヌ民族の歴史と文化について、アイヌ文化にゆかりの深いオオワシ、エトピリカとシマフクロウが解説する形式で子どもから大人までわかりやすく伝えていきます。15世紀から18世紀の和人ととの戦い。生活を困難にさせた明治以降の近代政策。そして、現在に至るまでの文化復興への取り組み。本作は、今を生きる私たちアイヌ民族が先人たちのつちかかってきた文化、歩んできた歴史をふまえ、それぞれの胸に、多様な思いをいだきながらあゆみを進めている姿を紹介しています。



今月の表紙

知里幸恵(1903~22)が亡くなる4日前に両親にあてた手紙。彼女は、言語学者・金田一京助の東京の自宅で『アイヌ神話集』の編集を終え、心臓の病気で診断されて結婚をあきらめるも、登別へ戻って口承文芸の記録に生涯をかける決意をしたためています。

②

「テンパテンパ」はアイヌ語で「かわってねの
意味、体験を通してアイヌ文化にふれることが
できる、大人も子どもも楽しめるコーナーです。
台号からそれぞれの体験ユニットをエデュケー
ターが紹介します。



交易のレート

「交易のレート」のユニットでは、アイヌ民族と和人との交易が歴史とどのように関わりあってきたのかを見ることができます。この2つの米俵は1俵をイメージしてつくって、形は全く同じですが実は重さが違います。年表や解説を見ながら、どんな出来事に影響を受けて、交易における「1俵」の重さがどのように変わっていったのかをぜひ体験してみてください。

t.1 海辺のくらし
t.2 山のくらし

ジオラマのユニットは「海辺のくらし」と「山のくらし」の2種類。どちらも今から120年ほど前の、サケが遡上してくるシーズンをイメージしてつくっています。のぞき板をのぞくことで、むかしの人々の生活風景を見ることができます。よく見ると、ジオラマの人々は展示室で見ることができるような道具を使って生活しているのがわかります。海辺と山のくらしは似ているところがあれば、もちろん違うところもあります。それぞれのくらしを比べてみましょう。



(エデュケーター 永石理恵)

さくらんぼのくらし...



【イコロ(宝刀)】

アイヌが用いた刀剣には、南北朝時代をはじめ各時代の日本刀やそれを模したものの、鞘や柄が金や銀などの金属で装飾されアイヌ向けとして作られたものなどがあります。アイヌは鍛造などの金属加工技術を持たなかったため、製作は和人によるもので、交易によってもたらされてきました。アイヌにとっての刀剣は、魔を払う呪術具、あるいは所持していることで他に財力や威厳を示す威信財としての価値もありました。

17~18世紀になると、鞘や柄に対して細かな細工が施され、武器としての実用性が低いものももたらされるようになりました。18世紀末の和人の記録に、このような意匠を凝らした刀剣を宝物という意味でイコロと呼んでいたことが記されています。また、このイコロはただ鑑賞するだけでなく仕事や約束事のための手形として、時には損害や罰に対する賠償の品として用いることがあったとされています。



鞘と柄が洋銀製のイコロ

上の写真で紹介しているイコロは、鞘や柄が銅と亜鉛とニッケルの合金(洋銀)でできており、金属素材から19世紀以降のものだと推測されます。このころのイコロは、金・銀以外にも複数の素材が使用されており、金色や銀色、銅褐色などその色合いはさまざまです。なかにはまったく異なる色合いをしているイコロに対して、鞘と柄の同じ箇所に同じ文様が施されているものがあります。これは、近代に至り、規格化された加工方法で複数製造されたのではないかと考えられます。このように、アイヌにもたらされる刀剣は時代によって

姿かたち、材料も変化してきました。これは、刀剣の性格として呪術具と宝物の両方が共存していたものが、徐々に宝物としての性格が強くなっていったためと考えられます。そのため、刀剣の形状や価値基準などが変わってもアイヌにとって大事な財産であることは変わらず、大切にされてきました。古い刀剣は当時の風習を示す貴重な資料ですが、新しい時代の刀剣は別物の、イコロとして活用する文化を継承してきたことを示す重要な資料です。

(研究員 赤田昌倫)

教育普及活動報告

ホリデーイベント名	実施日
みんなのうたおどり♪	2021. 1/9
自分だけのミニタマサイを作ろう!	2021. 1/23
よりよいかエカ(糸より)でストラップ①~②	2021. 1/30、2/6
粘土にアイヌ模様をかいてみよう	2021. 2/20
もっと知りたい!「収蔵資料展 イコロ」①~⑤	2021. 2/27、3/13、3/20、4/10、4/24
伝承から自然災害を記憶する一津波	2021. 3/6
NAM・アイヌ文化クイズ!	2021. 4/17



イベントの様子

「伝承から自然災害を記憶する一津波」を2021年3月6日(土)に開催し、約40名の方に参加いただきました。東日本大震災から10年を迎えることもあり、今回は白老におけるアイヌ民族の津波の伝承を紹介しました。白老町の協力により、参加者に津波防災マップを含めた防災グッズを配布しました。伝承を踏まえて、配布したハザードマップを見ながら活動では、真剣に眺める様子の方が多く見受けられました。また、「改めて日頃の備えが必要と感じた」という感想もありました。

(エデュケーター シン・ウォンジ)

ウポポイのアイヌ語表示について紹介します。

見て見て! 館内サイン④

アシンル
化粧室

今回は「化粧室」のサインについて紹介します。「アシンル」は「便所、トイレ」を意味するアイヌ語です。かつてのくらしでは、便所はチセ(家屋)の外にありました。他にも「ルカリウシ」「オソマル」「オソマチセ」などともいい、男性用と女性用を区別して言う地域もあります。館内をはじめウポポイ内の案内サインでは、より多くの地域で使われている「アシンル」を採用しました。

便所には「ルコロカムイ(便所のカムイ)」がいます。危険が迫った時や難産の時などに助けてくれる、身近なカムイです。また女性用便所は、人間を殺したクマなど、悪い行いをしたウェンカムイ(悪いカムイ)を罰する際に使われる場所でもありました。

※アイヌ(人間)の周りに存在するさまざまな生き物や事象のうち、重要な働きをするもの、強い影響があるものなどを「カムイ」と呼びます。

(学芸員 矢崎春菜)



博物館1階入口側

工房のサイン

「アイヌ文化の教育と人材育成」

日時

2021年3月13日(土) 開始13:00 終了16:20

プログラム (総合司会: 藪中剛司研究学芸部長)

- 13:00-13:05/趣旨説明
- 13:05-13:40/「北海道大学アイヌ・先住民研究センターの取り組み」
 - (1)「先住民研究としてのアイヌ研究へ向け」加藤博文センター長
 - (2)「展示活動における博物館と大学との連携」山崎幸治准教授
 - (3)「(民族共生)を実践する博物館活動」北原モコットウナン准教授
- 13:40-14:15/「国立アイヌ民族博物館の取り組み」
 - (1)「アイヌ文化復興のナショナルセンターとしての博物館の使命」佐々木史郎館長
 - (2)「博物館開館から現在までの取り組み」鈴木建治研究員
- 14:15-14:25/休憩
- 14:25-16:20/討論会(司会進行:加藤センター長)

「アイヌ文化の教育と人材育成、そして世界へのアイヌ文化の発信」

パネリスト 加藤センター長、山崎准教授、北原准教授、佐々木館長、村木美幸副本部長、八幡巴絵学芸主査、中井貴規研究員、北嶋由紀学芸員

講演内容

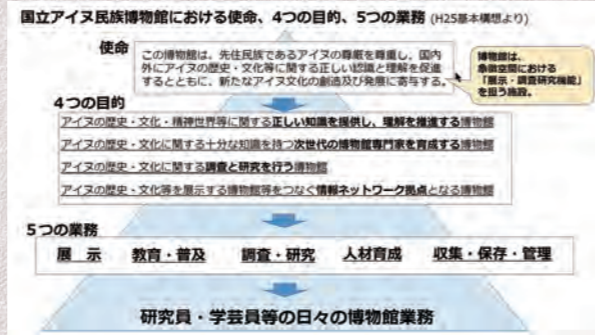
国立アイヌ民族博物館と北海道大学アイヌ・先住民研究センターが2020年11月に学術連携協定を締結したことを記念し、キックオフシンポジウムが3月13日に開催されました。この協定では、国立博物館としてアイヌ文化の国内外への発信と調査・研究・収集・展示などを行う国立アイヌ民族博物館と、研究教育機関としてアイヌ・先住民研究の推進と大学院教育を通じた人材育成に取り組む北海道大学アイヌ・先住民研究センターが連携し、北海道という地域の利点を生かした学術研究と教育活動を推進していきます。シンポジウムは、アイヌ文化の教育と人材育成について、個別発表と討論の2部に分けて行われました。

個別発表では、博物館や研究センターの理念やこれまでの取り組みなどの紹介をはじめ、博物館や大学が地域コミュニティと連携し展示活動していくことの重要性や、「民族共生」の実践に向けたウポポイでの差別防止や当事者参画などの制度整備の必要性などについて語りました。

本シンポジウムのメインとなる討論では、パネリストとして、博物館側と研究センター側から計8名が参加し議論を展開しました。まずは、主要なウポポイ来園者である学校関係者の教育について、アイヌ文化財団発行の副読本の活用の課題が示され、学生を教える教員

への教育の充実化を図ることの重要性が話し合われました。副読本の有効的な活用も考慮した教員育成が急務であり、博物館と学校との連携強化の必要性が指摘されました。つづいて、アイヌ文化伝承者・実践者の教育と人材育成について、個別発表でも提案された、博物館展示を通じた地域コミュニティとの密なる連携が言及されました。今後の博物館における地域コミュニティを巻き込んだ定期的な企画展の実施に関する計画が語られました。最後には、ウポポイで働く職員の教育と人材育成について議論しました。ウポポイでの第一言語であるアイヌ語の教育の運用方法をめぐり、施設内での積極的な活用の提案などのさまざまな意見が出されました。中には、アイヌ語も重要であるが、アイヌ民族の尊厳を尊重する歴史や文化の教育がまだ足りないという意見も出されました。また、事前受付の質問内容に触れ、ウポポイ内で和人として働く職員の葛藤についても紹介し、民族共生の実践をいかに行うのかも話し合いました。アイヌ文化の教育と人材育成をテーマとした本シンポジウムを終えて、ここで議論した内容等は、今後、国立アイヌ民族博物館と北海道大学アイヌ・先住民研究センターが中心となりさらに議論を重ね、シンポジウム等の共同事業として再度公開していく予定です。

(研究主査 鈴木建治)



ウポポイ こんなところ1

ウポポイは、アイヌの多様な世界と出会う場所。これから、ここにあるさまざまな施設を紹介していくボン!



ウポポイ(民族共生象徴空間)は、先住民であるアイヌ民族の文化を復興・発展するための拠点となるナショナルセンターとして、主に「国立アイヌ民族博物館」「国立民族共生公園」「慰霊施設」などから構成されています。

「国立民族共生公園」は、自然の中で培われてきたアイヌ文化を多様なプログラムを通じて体感することができるフィールドミュージアムです。

北海道の豊かな木々や動物を表現した「いざないの回廊」を抜けると「歓迎の広場」がウポポイへ来園される全てのお客様をお迎えします。

広場には国内外の人々との共生と連携の輪を表現する円形広場を囲むデザインの「エントランス棟」があり、券売所やインフォメーション、休憩スペースのほか、お土産に最適な商品を販売するショップ、眺望を楽しめるレストランや幅広いメニューを取りそろえるフードコートもあり、アイヌ文化由来の料理なども味わうことができます。

入場ゲートを抜け、ポロト湖を正面に西側へ足を向けると、優美な円形デザインの「体験交流ホール」が見えてきます。こちらではユネスコ無形文化遺産に登録されている「アイヌ古式舞踊」などを上演しており、夏季限定「夜のウポポイ」では、屋外プロジェ

クションマッピングショー「カムイ シンフォニア」を楽しむことができます。西側をさらに進むと、アイヌ料理の調理や試食、伝統楽器の鑑賞や演奏などが体験できる「体験学習館」があり、ポロト湖の対岸に目を向けると、茅葺き屋根のチセ(アイヌ語で「家」の意)が並んでいる「伝統的コタン」、民芸制作の実演を見学したり、木彫りや刺しゅう体験ができる「工房」などがあり、これらの施設を自由に見学できます。

次号から、それぞれの施設と多彩なプログラムを紹介していきます。お楽しみに!

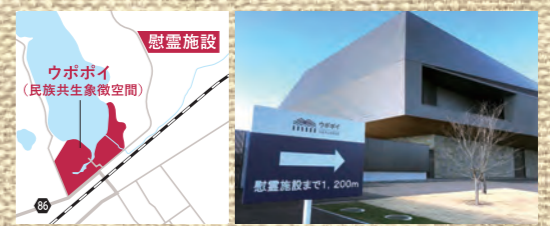
アイヌの人々の尊厳ある慰霊の実現を図るために

シンヌラッパ ウシ 慰霊施設



「慰霊施設」は、ポロト湖東側の太平洋を望む高台にあり、慰霊行事施設・墓所・モニュメントなどが整備されています。アイヌの人々への遺骨等の返還が進められていますが、直ちに返還できない遺骨等については集約し、アイヌの人々による尊厳ある慰霊の実現を図るとともに、アイヌの人々による受け入れ体制が整うまでの間の適切な管理を行う役割を担う施設です。

慰霊施設を象徴し、民族共生の理念を表現するモニュメントは、儀礼に使うイクバスイ(酒を捧げる祭具)をモチーフとし、外観にはアイヌ文様をあしらっています。慰霊行事施設の外観はチセ(家屋)をイメージしており、墓所の外観の正面外壁にはアイヌの墓標をイメージしたレリーフを装飾しています。



公開時間 ○ 7月12日～9月30日 9:00～17:00
10月1日～3月31日 9:00～16:00
休業日 ○ 月曜日(祝日または休日の場合は翌日以降の平日)
および年末年始(12月29日～1月3日)
公開箇所 ○ 墓所(外観のみ)、慰霊行事施設、モニュメント
駐車場 ○ 66台 料金/最初の1時間200円、以降1時間ごとに100円加算、最大500円

国立アイヌ民族博物館 ミュージアムショップ

MUSEUM SHOP
ショップスタッフおすすめの
オリジナルグッズを紹介!



北海道アイヌ協会認定の
優秀工芸師、貝澤守氏による
原画・監修

アイヌ衣文化の研究で博士号を持つ、
津田命子氏監修



押すと鳴ります!
ほかにも
ウポポイPRキャラクター
トウレツポンのグッズが
ありますよ!

トウレツポーン
ボールチェーン
マスコット

ウポポイへの入場は 事前予約制です。

新型コロナウイルス感染拡大防止のための
取り組みについて、ご理解とご協力を
よろしくお願いいたします。



STEP 1

博物館への事前予約

博物館に入館する場合は、必ず事前予約
をお願いいたします。

当日、予約なしで博物館への入館はでき
ませんのでご注意ください。

国立アイヌ民族博物館では、館内にいる
人数を常時200人程度に保つため、1時
間刻みの予約制としています。オンライン
予約で「博物館 入館整理券」を発行し
てください。

オンライン予約の状況を
ご確認後に、
ウポポイ入場券の購入を
お勧めしています。

博物館への予約は
こちら



<https://www.e-tix.jp/nam/>



STEP 2

入場券の事前購入

入場券	料金 (税込)	入場日 の予約
1日券	大人 1,200円 高校生 600円	オンライン購入 時に日付を指定
年間 パスポート	大人 2,000円 高校生 1,000円	入場日予約券 (無料)を発行。 オンライン予約 で日付を指定
入場無料	中学生以下 障がいのある方、 その介助者 (1名)	

1日券購入は
こちら

年間パスポート
購入はこちら



ウポポイから入場に関するお知らせ

ご来場の際には、新型コロナウイルス感染拡大防止のための以下の取り組みについて、
ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

- ウポポイでは、入場日の予約制(日付指定)を導入しております。ウェブサイトの「入場券等のお求めと来場日の予約について」により、必要な入場券等を入手の上、ご来場ください。
- 国立アイヌ民族博物館の展示室の観覧を希望する方は、別途、オンラインによる入館日時のご予約が必要です。
- 博物館以外の施設では、当日、整理券を配布するものがあります。
- ご入場の際には、マスク着用、ソーシャルディスタンスの確保及び連絡先記入票のご提供(博物館入館日時を予約された方を除く)等についてご協力をお願いします。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、プログラム内容等を一部変更、中止している場合があります。ウェブサイト等で事前にご確認ください。

国立アイヌ民族博物館からのお知らせ

次回展覧会

**特別展 ゴールデンカムイ
トゥラノ アッカシアン**
— 杉元佐一とアシシバが旅する世界 —

会期 2021年6月26日(土)～8月22日(日)
※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては変更する場合があります。

会場 2階 特別展示室

特別展観覧料 大人300円、高校生200円、中学生以下無料
※別途、博物館への事前予約とウポポイの入場料が必要となります。
※詳しくは、当館ウェブページをご覧ください。

特別協力：集英社「週刊ヤングジャンプ」編集部

2014年から「週刊ヤングジャンプ」(集英社)で連載中の『ゴールデンカムイ』(野田サトル)。作中に描かれるアイヌ文化やアイヌ民具をはじめ、北海道の砂金、日露戦争とアイヌ民族、樺太の歴史と先住民族、北海道の街をテーマに、登場人物や当時の北海道・樺太に関する資料を、原画とともに紹介します。

※「ゴールデンカムイ トゥラノ アッカシアン」は、アイヌ語で「ゴールデンカムイと歩く」という意味です。



©野田サトル/集英社

2021年度の開館時間・休館日

◎開館時間

2021年 4月 1日～2021年 7月16日	平日 9:00～18:00 土日祝日 9:00～20:00
2021年 7月17日～2021年 8月29日	9:00～20:00
2021年 8月30日～2021年10月31日	平日 9:00～18:00 土日祝日 9:00～20:00
2021年11月 1日～2022年 3月31日	9:00～17:00

※博物館開館時間とウポポイ開館時間は
同一です。

※入園できる時間は閉館時間の1時間前
までです。

※博物館へ入館できる時間は閉館時間の
30分前までです。

※第1・第2臨時駐車場へ入場できる時間
は8:00～閉館時間の1時間前までです。

◎休館日 月曜日(祝日または休日の場合は翌日以降の平日)および年末年始(12月29日～1月3日)

ウポポイ公式音声ガイドアプリ

ウポポイの園内施設や博物館の展示物について、音声や
写真などでご案内するアプリです。アイヌ語をはじめ8言語
に対応しています。「ウポポイ公式アプリ」はAndroid版・
iOS版ともにご自身の端末にダウンロードしてお楽しみいた
だけます。どうぞご利用ください。



アイヌ語解説
Ainu Language
Commentary



多言語解説
Multilingual
Commentary

アプリダウンロード
ページはこちら



Download on the
App Store

GET IT ON
Google Play

無料配信
Free Download



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館



NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
ウポポイ
民族共生象徴空間

■お問い合わせ

公益財団法人 アイヌ民族文化財団(ウポポイ内)

住所：〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3番2号

電話：0144-82-3914 FAX：0144-82-3685

メール：info@ainu-upopoy.jp

ウポポイに関する詳しい情報はウェブサイトをご覧ください。

ウポポイ 検索

<https://ainu-upopoy.jp/>



<https://nam.go.jp/>

※アヌアヌは、アイヌ語で「もしもし」の意味です